

先人が残した宝物

～南区城南町の文化財～



城南町の文化財は、県内でも有数です。今日の講座では、皆さんにその存在や素晴らしさをお伝えし、文化財に関心を持っていただけたら幸いです。

熊本市塚原歴史民俗資料館 学芸員 清田 純一 氏

館内には、熊本の考古学研究的礎を築いた小林久三氏のコレクションも収蔵・展示

塚原歴史民俗資料館は、塚原古墳群の出土品をはじめ、考古、歴史、民俗分野の資料を収蔵し、考古展示室には、約600点を展示しています。



「肥人の群像」



りゅうがん塚古墳



石棺

城南町（宮地付近）は、古代から交通の要衝であり戦略の拠点だった！

平安時代中期に編纂された律令の施行細則「延喜式」には「球磨駅」として記載されている。

「球磨」は「隈」であり、「隈庄」周辺のことで、南北朝時代には「隈庄城」があった。

古代、
豪族がいた！

旧石器時代 県内最古の沈目遺跡

石器や石核が出土。阿蘇外輪山でしかとれない石も見つかり、当時の人々の行動半径が50kmはあったと考えられる。

3万3千年前の遺跡（当時の日本列島は、ユーラシア大陸と陸続きだった。）

縄文時代

城南町は有明海に面していた⇒貝塚の発見！（国指定史跡）

「阿高・黒橋貝塚」、「御領貝塚」など大規模な貝塚が発掘された。

縄文中期（約5000年前）

縄文後期（約3000年前）

発掘されたものは、貝類の他、獣や魚の骨、貝製のお面、貝の腕輪、土器、祀りで使う石棒などであった。また、人骨も多数発見され、貝塚は単にゴミ捨て場ではなく、「魂を送る場所」だったと考えられる。



弥生時代

新御堂遺跡（約2000年～1800年前）

弥生時代の中頃（約2000年前）から、多くの人が城南町で暮らし始めた。新御堂は有力なムラの跡で、400基を超える墓や500棟を超える竪穴住居が見つかった。

資料館前にある「上の原遺跡」の古代人住居と倉庫
竪穴住居は5世紀前、高床倉庫は7世紀初めの復元



「台付舟形土器」

1800年前

国指定重要文化財

形のユニークさと描かれた文様が特徴的



「大泉五十」

中国の新しい時代の金

王の名前が王莽（おうもう）だったのでオウモウセンとも呼ばれる。



「巴形銅器」

1800年前

青銅器

権威のシンボル

古墳時代

塚原古墳群には500基もの古墳があった！



4世紀から6世紀にわたって造られた古墳群

ちょっと素敵な出土品



他の時代も

陣内廃寺の3種の軒丸瓦

熊本最古の寺院「陣内廃寺」

白鳳時代の創設

現在は塔の心礎のみ残る

他にも *千々屋寺の馬頭観音（県指定重要文化財）

*下田の大イチョウ（国指定天然記念物）

などなど

「皮袋型土器」 須恵器
古墳時代（約1450年前）
東アジアの遊牧民が馬上で水筒として使っていた皮袋を模した土器